

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170502470), 法人名 (医療法人社団高台病院), 事業所名 (グループホームはしどい), 所在地 (札幌市豊平区美園3条8丁目4-5), 自己評価作成日 (令和 1年 10月 1日), 評価結果市町村受理日 (令和元年11月18日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安心して楽しく生活できるよう、一人一人を尊重し、明るさと優しさを持ったケアに努めている。また毎月1回何かしらの行事やイベントを行ったり、日々のレクリエーションで近所のコンビニエンスストア・スーパーへの散歩やおやつ作りを行うなど、利用者が日々の生活に楽しみを持って頂けるように努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kani=true&JigvosvoCd=0170502470-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和 1年 10月 29日)

豊平区の高台公園近くに立地している2ユニットのグループホームである。近隣には商店やコンビニがあり利便性に恵まれている。建物は鉄筋コンクリート3階建ての白色のビルで、2階、3階をグループホームとし、1階には障がい者ホームが併設されている。内部は広く明るく清掃が行き届き、快適な居住空間である。運営母体は医療法人で、同区で病院を営んでおり、医師による訪問診療、看護師の配備などで健康管理が適切になされている。職員は長年の介護サービス経験とチームワークの良さのなか、目標をもち計画的に質の高いケアを実践している。家族アンケート実施で本人家族の意向の把握に努め、利用者や家族からは厚い信頼を得ている。季節ごとの事業所内イベントや近郊へのドライブで利用者の生活の活性化を図り、事業所主催の夏祭りの開催や幼稚園訪問などで地域との交流を深めている。地域の中で、我が家のように、一人ひとりが心地良く安心して暮らせるように支援している。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに掲示はしているが、理念の理解・共有の部分がやや不足している。	理念は事務室や事業所内各フロアの見やすい場所に掲示し、職員ネームカード裏にも記載している。職員は年間、月間目標を定め、理念を共有してケアの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りへ参加したり近隣の公園やコンビニエンスストアなどへの散歩等で交流はできているが日常的には行えていない。	町内会に加入し、地域の祭りや神社参りをしている。事業所主催の夏祭りには地域の人々の参加があり盛況である。利用者が作る手縫いの雑巾を近くの幼稚園に訪問時に寄贈するなど交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の人の理解や支援等について取り上げ発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、都度取り組み状況等を報告している。頂いた意見は参考にし運営に活かしている。	会議は定例に開催し、地域包括支援センター、民生委員、家族、法人病院事務長が参加している。運営、行事などを報告し、討議内容はサービス向上に活かしている。議事録は家族全員に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	集団指導や管理者連絡会議等で情報をとってはいるが密とはいえず強い協力関係は築けてはいない。	行政担当課とは業務報告や相談で連携をとっている。担当課職員の来所もある。管理者は管理者連絡会議や研修会に参加し、行政の意向を汲み取り協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の内部研修や3か月に1度の身体拘束委員会等で身体拘束について勉強する機会を持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は不審者対策として曜日・時間を限定して家族同意のもとで行っている。	「身体拘束委員会」を3か月毎定期的に開催して議事録をとり、全員が確認するように回覧している。マニュアルを整備し、年2回勉強会を実施している。身体拘束について職員アンケートを行い、職員の自覚と周知をはかり身体拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待に関する勉強会を行い、虐待について理解・防止に努めている。また虐待に繋がらないよう、普段の業務に不適切な対応等がないかフロアミーティング等で確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で勉強会を行っているが理解不足の面もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は丁寧に説明を行い、何か不安や疑問点等があれば都度お聞きし、理解・納得を得てから行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、電話や面会時に何か意見等があれば伺い、それを運営に反映させている。気軽に意見を言うような雰囲気づくりに努めている。	家族来所の折は話を聞くように努めている。家族満足度調査のアンケートを実施し、「はしどい便り」や手紙で生活状況を伝えている。意見箱を設置し、外部への苦情申込み機関を掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り、普段の業務の中で意見や提案を聞く機会を設けそれを反映させている。	職員は行事、レクリエーションなど各係に所属して運営に参加している。管理者はミーティングや申し送りなど普段の業務の中で職員の意見や提案を聞く機会があり、意見は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況の把握に努め、職場環境の改善に努めているが、人員を確保できず労働環境は改善されておらず、職員の疲労も蓄積されている。給与水準・人事考課について次年度へ向けて現在調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足もあり外部研修を受ける機会を持っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市や区の連絡会議等で交流する機会があるが、職員は交流の機会を持っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が話しやすい様な雰囲気作りに努め、頻りに訪室するなどこまめにコミュニケーションを取り、要望を汲み取れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が話しやすいような雰囲気づくりに努めている。話を伺い、ご家族の思いを受け止めることから始め、信頼関係を築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人のお話、事前情報等をもとに「その時」まず必要としている支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができるところはなるべくご自分で行って頂き、必要な部分の支援を行っている。何ができるのか、何かしたい事はないか等、話を伺い本人の意向に添っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話、手紙等でこまめに情報を共有し、ご家族の意向や要望等をケアに活かし、共に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途絶えないよう、ご家族・ご友人等の面会は自由にして頂いており、携帯電話の持ち込み・操作の支援、手紙の投函等の支援はできてはいるが、馴染みの場所への支援はあまりできていない。	家族や友人が面会に来られた時は、事業所内でゆっくり寛げるように配慮している。手紙や電話での連絡がとれるように支援し、馴染みの関係が続くように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活やレクリエーション・行事などを通して利用者同士が関わり合いを持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後はほとんど関わりがない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から積極的にコミュニケーションを図り希望・意向が把握できるよう努めている。	日々の会話や表情から意向の把握に努め、センター方式記載の生活歴なども参考にしている。家族からも情報を得、職員間で情報共有し、本人の意向に沿えるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族より話を聞き把握に努めてはいるが情報が不十分な部分もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや生活記録、個別の支援経過記録等を利用して情報共有を行い把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式をもとに、本人・家族をはじめ異業種とも情報共有を行いながら現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の意向を聞き、担当職員が個々にモニタリングを行い、医療関係者の意見も参考にし会議で検討し、6カ月毎に介護支援専門員が作成している。状況変化時には随時モニタリングを行い、現状に即して作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・経過・結果等を生活記録や支援経過記録に記入し、全員で情報共有しながら実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々ニーズに対し、なるべく迅速に柔軟な支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園や、コンビニエンスストア、スーパーの休憩処の利用、水族館や花畑、大規模な公園への外出などを行い、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の母体の高台病院の往診や週1回の歯科往診が受けられ、本人及び家族の希望する病院があれば希望の病院へ受診して頂き適切な医療を受けて頂いている。	母体病院からの月2回の定期的な往診と看護師の配置で健康管理がなされている。家族希望のかかりつけ医や他科受診への通院は家族と共に支援している。緊急時医療連携も確約されており、歯科医の訪問診療もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	都度何かあれば、連絡・相談・報告をしながら状況に応じた適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネジャーが中心となって病院関係者と情報共有や連絡調整等を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の際、重度化した時のおおまかな希望を伺い、ホームでの出来る事と出来ない事を説明している。実際に重度化した際はできるかぎり意向に添えるよう都度家族と相談をしながら支援に取り組んでいる。	入居時に家族や本人と重度化や看取りについての希望を聞き、事業所のでき得る内容を説明し、文書で確認している。重度化した場合は家族、医師、職員と情報、方針を共有し、医療機関と連携を取りながら最善の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行ったりマニュアルや管理者・看護師の指示で対応ができてはいるが、実践力という点では不足している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・水害・地震の訓練を定期的に行っているが、地域の方も参加しての訓練は最近できていない。	火災、水害、地震の避難訓練は夜間を想定し年2回実施し消防署に連絡報告している。停電時の冬季暖房の用意や食品などの備蓄があり、法人母体病院との協力が約束されている。日頃の防火対策についても配慮している。	避難訓練は、1階の障がい者ホームと共に実施している。以前は地域の人々の参加もあったが、現在は難しい。再度地域に働きかけ、近隣の防火対策も含め、協力体制を築くことを考慮しているので期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重しながら、誇りやプライバシーに配慮した節度を持った言葉かけや対応に努めている。	接遇に配慮し言葉かけや対応に配慮している。一人ひとりの人格を尊重し、個人情報記載書類はプライバシーを考慮し慎重に取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人が自己決定できるよう努めている。また思いや希望を遠慮なく表せるような雰囲気づくり・関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人一人のペースに合わせ、希望に沿って支援しているが、状況によっては職員の都合に合わせて頂く場面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んで頂いたり、希望に合わせた理美容の実施、日々の整髪等にも気を配って支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には好きなメニューを提供したり、畑で自分で収穫した食材をメニューに取り入れるなど楽しみになるよう支援している。調理や片付けの手伝いも行って頂いている。	法人栄養士作成の献立を利用者向きに改良して提供し、行事食は利用者好みのメニューである。利用者は調理や後片付けを手伝い、職員と同席して和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアチェック表を利用し、1日の食事や水分の摂取量を把握し、過不足がないよう一人一人に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医のアドバイスをもらいながら毎食後一人一人に合った口腔ケアの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄状況を把握し、それぞれに合った排泄のケアを行っている。安易にオムツも使用しないよう都度検討を行っている。	排泄記録や表情などから状況を把握し、適時にトイレにそれとなく誘導している。個々に合わせ衛生用品やポータブルトイレを利用しながら、トイレでの自立排泄に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤や整腸剤の調整、水分量の調整、乳製品の摂取、毎日体操を行うなど個々に応じた予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば曜日を固定したりその日の本人の気分に合わせるなど個々にそった支援を行っている。	原則週2回の入浴を予定しているが、希望や体調タイミングにより柔軟に支援している。シャワー浴や清拭も取り入れ、入浴剤を使用し温泉気分を楽しめる日もある。浴室の清潔安全に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースを把握し、休息の希望を伺ったり、ソファや居室で自由に休んで頂いている。消灯時間等は特に決めず本人の希望に沿った支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や目的・副作用については全ては把握できていない。内服の変更時は看護師と情報共有を行い特に症状の変化に注意し確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意な事や楽しみを確認し、それぞれの力を活かしたお手伝いや趣味活動などの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会を増やすことを目標に希望に添えるよう努めてはいるが、人員不足もありその日の希望に沿った日常的な支援は現在は難しくなっている。	日常的には近くの川沿いの道を散歩している。畑もあり野菜の収穫を楽しむことができる。行事として花見や水族館見物、大通り公園、八紘学園花菖蒲園へのドライブなどがあり、時には家族も同行し、生活の活性化を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はほとんどの方が事務所管理となっており、所持されている方はほとんどいないが、使いたい時には基本いつでも使用できるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は随時対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾を飾ったり、室温や湿度、フロアの明るさ等に配慮しながら居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間は広く、採光に恵まれ明るい。壁には季節の飾り付けを行い、行事を楽しむ利用者の写真が飾られている。居間の大きな窓からは四季折々の公園の木々が眺められ季節感がある。室温、湿度は適切に管理され、騒音はなく清掃も行き届き快適な共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性に十分配慮しながら、ソファの席や配置、食卓の席の場所など工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険のない物であれば自由に好みの物や馴染みの物を置いて頂き、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	居室には使い慣れた馴染みの家具を置き、壁には家族写真を飾り、我が家として居心地良く安心して過ごせるように工夫している。収納スペースもあり、程よく整頓され清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室が分りやすいようサインを貼ったり、食卓やソファの席に各自の席に名前を付けるなど工夫している。		